

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

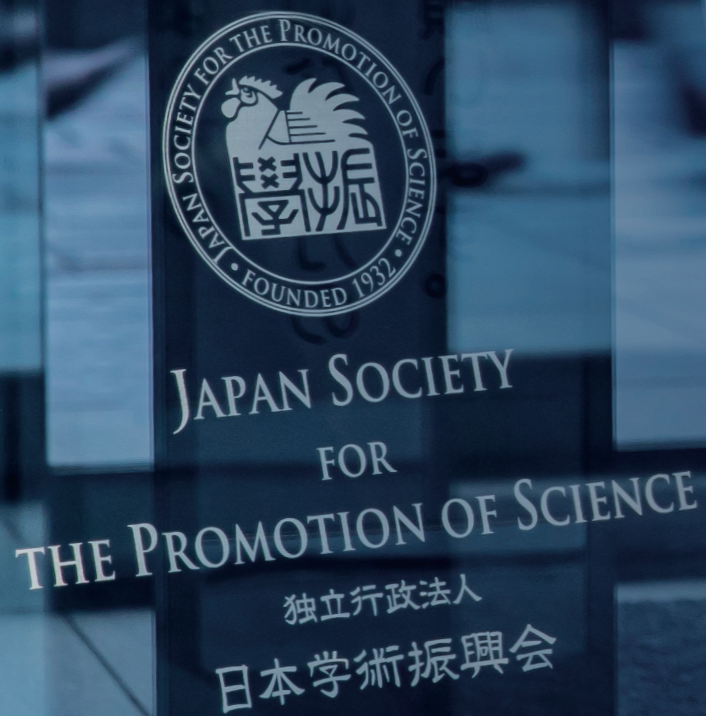
2023

2024





# 研究者に「夢中」を—— いつも、そしていつまでも。



社会の持続的発展や国の国際競争力の強化をもたらす、卓越した知。

それは、研究者一人ひとりの自由で柔軟な思考と  
斬新な独創的発想に基づく挑戦によって生み出されるものです。

独立行政法人日本学術振興会の役割は、そんな果敢な研究者たちの活動を  
安定的・継続的に支えること、安心して研究に没頭できる環境を実現することです。

## 日本学術振興会 (JSPS : Japan Society for the Promotion of Science)

JSPS は、昭和7(1932)年に昭和天皇の御下賜金を基金として  
創設された、学術の振興を目的とする日本で唯一の独立した  
資金配分機関です。  
学術研究の助成、研究者の養成、学術に関する国際交流の  
促進、大学改革の支援など多岐にわたる事業を行っています。

2003

平成 15 年 10 月

●  
独立行政法人 日本学術振興会  
設立

1967

昭和 42 年 9 月

●  
特殊法人 日本学術振興会  
設立

1932

昭和 7 年 12 月

●  
財団法人 日本学術振興会  
設立認可

# HISTORY

沿革

## MESSAGE

### 理事長ごあいさつ



独立行政法人日本学術振興会  
理事長 杉野 剛

令和4(2022)年は世界中の人々がヨーロッパを舞台とする国際紛争に驚かされた1年となりました。3年前から新型コロナウイルスの災禍で遮断されてきた国際交流が、また別の要因も加わって出口を模索する状況が続いています。

ただ、そんな年にあっても、日本学術振興会のオフィスには毎週のように各国の関係者が来訪され、日本との学術交流を望む熱心な声を聞かせていただきました。

「日本との研究交流の枠をもっと増やせないだろうか」  
「私たちは、ほかでもない日本の研究者との交流を望んでいる」  
「日本の若手研究者のためだけの特別プログラムを用意してもよい」

彼らの言葉の端々から、単純な数値やランキングでは示しえない、日本の学術界の高度で、真摯で、清潔な研究文化・土壌に対する高い敬意がひしひしと感じられ、とても

驚き、嬉しく思いました。  
かかる文化・土壌を長年にわたって営々と積み上げてこられた多くの研究者の方々のご努力に改めて敬意を表し、研究文化・土壌のあり方も含めた日本の「真の研究力」をこれからも支え続けていきたい。

これが令和5(2023)年を迎えた私の決意です。



# 01 日本最大規模の研究助成制度で、自由な発想に基づく学術研究を支援

## 科学研究費助成事業（科研費）

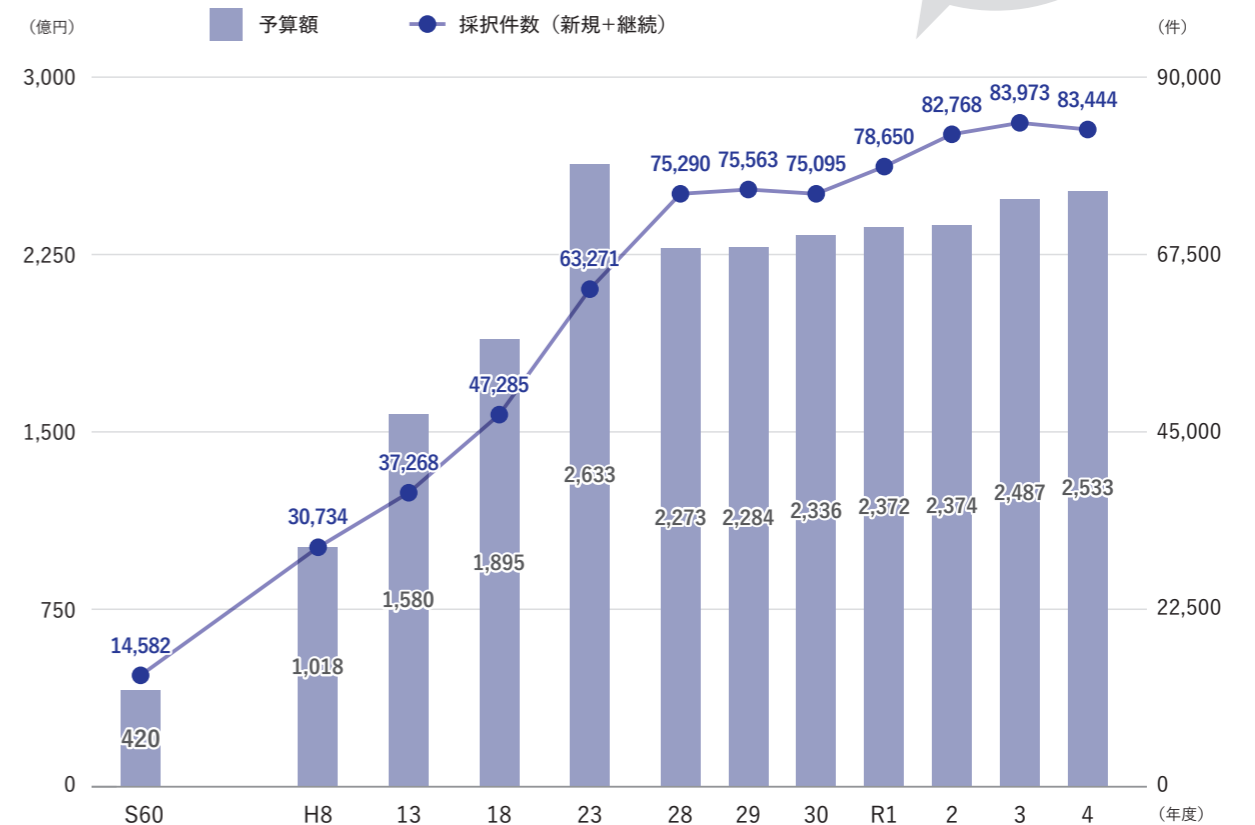
私たちの暮らしを豊かにし、様々な社会課題の解決にも貢献する科学技術・イノベーション。その源泉となっているのは、研究者の自由な発想に基づく学術研究です。

科研費では、人文学、社会科学から自然科学までのすべての分野にわたり、基礎から応用まで、あらゆる学術研究をサポートしています。

研究者に対して研究資金を交付する制度として、科研費の前身となる「科学奨励金」を国が創設したのは大正7（1918）年。現在では、科研費は日本最大規模の研究助成制度です。これからも科研費は科学の発展の種をまき、芽を育てていくため、学術研究を支え続けていきます。

年間  
約9万件の  
応募

科研費の応募件数は、近年は約9万件で推移。その中から毎年約3万件が新規に採択されています（新規採択率 28.6%）（令和4（2022）年度実績）。既に採択され継続している研究課題とあわせると、年間約8万件を支援しています。



8千人以上の  
研究者による  
公正・透明な審査

質の高い優れた研究課題を選定するため、科研費の審査には、8千人以上の研究者が審査委員として参画し、公正で透明性の高いピアレビュー<sup>\*</sup>による審査を行っています。

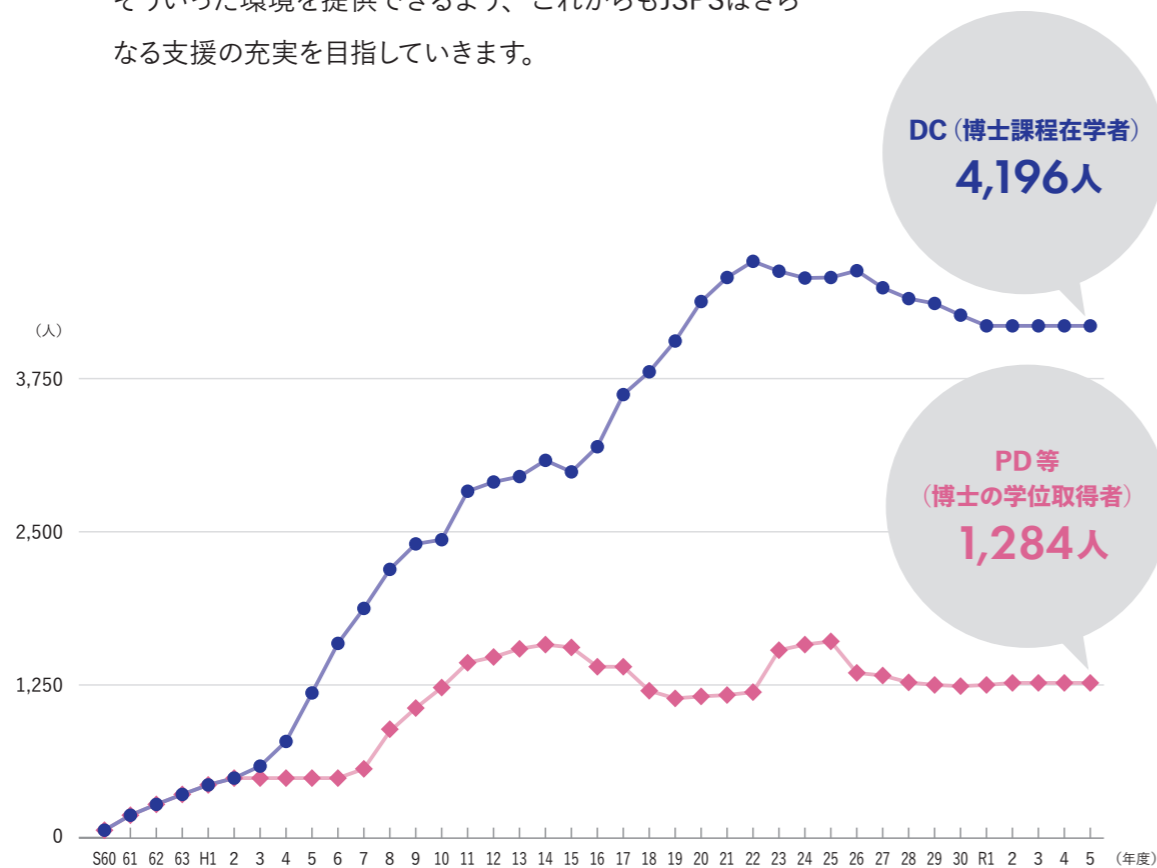
<sup>\*</sup>研究者コミュニティが自ら選ぶ研究者が、科学者としての良心に基づき、個々の研究の学術的価値を相互に評価・審査し合うシステム。

# 02 優れた若手研究者に研究に専念する機会を提供し、次世代の研究者を養成

## 特別研究員事業

大学院博士課程在学者（約7.5万人）や博士の学位を取得したポストドクター（約1.6万人）など次世代を担う若手研究者たち。その中でも全国レベルでの厳正な審査をくり抜けたトップクラスの優れた若手研究者を「特別研究員」として採用し、大学等において自身の研究に専念できるよう支援しています。

ノーベル賞受賞者の画期的な研究成果も、20代、30代の頃の独創的な研究から発展したものが多くとわれています。研究生活の初期において、自由な発想で、主体的に研究課題を選びながら研究に専念する。多くの若手研究者にそういった環境を提供できるよう、これからもJSPSはさらなる支援の充実を目指していきます。



年間  
**5,000人**  
以上を支援

昭和60（1985）年に開始した特別研究員事業は、いまや年間5,000人以上の若手研究者を支援。優秀な研究者の登竜門ともいべき制度として、研究者コミュニティに定着しています。

また、出産・育児など若手研究者のライフイベントに配慮した支援も行っています。特別研究員がより安定した環境で研究に専念できるよう、今後も柔軟な対応と制度改善を行っていきます。

特別研究員-PD等は採用終了から5年経過後に84.6%、特別研究員-DCは採用終了から10年経過後に78.2%が常勤の研究職に就職。日本の研究者養成の中核を担う制度となっています。

約**8割**が  
常勤の研究職に

雇用支援事業を  
開始

これまで雇用関係を有していなかった特別研究員-PD等について、令和5（2023）年度から受入研究機関において雇用可能とする制度改善を行いました。

特別研究員制度の趣旨に賛同し、PD等を雇用して積極的に優秀な若手研究者の確保・育成に取り組むことを希望する研究機関への支援を通じて、PD等がこれまで以上に研究に専念できる環境を整えていきます。



# 03 国際研究ネットワークの基盤を強化し、世界における日本のプレゼンスを向上

世界  
**97機関**  
とのネットワーク

JSPSの国際事業の歴史は、昭和30年代まで遡ります。戦後、日本社会が国際化の傾向を強めていく中で始まった外国人研究者招へい事業（昭和34（1959）年度～）と、日米首脳会談に基づき、JSPSが日本側機関として指定された日米科学協力事業（昭和37（1962）年度～）。国レベルの大きな動きの中で、日本にとって初となる本格的な

学術国際交流事業をJSPSが担いました。

それ以降、JSPSは諸外国の学術振興機関との交流・協力事業を拡大し、現在では世界97機関（令和5（2023）年9月現在）との国際研究ネットワークを有しています。

また、世界9か国10か所に設置する海外研究連絡センターや海外アドバイザーを通じて、海外の学術振興機関との連携や日本の学術情報の発信等を行っているほか、世界20か国でJSPS事業経験者等による同窓会が組織されており、研究者間のネットワークも継続できるよう支援しています。

JSPSが有するこれらの強みを活かして、国際研究ネットワークにおける日本の学術的なプレゼンス向上に寄与しています。

研究者派遣

**5,459人**

海外特別研究員などの研究者派遣事業のほか、日本と諸外国との二国間・多国間における研究チームの交流や共同研究・セミナーの開催、研究交流拠点の形成を支援する事業を通じて、世界97か国・地域に5,459人の研究者を派遣しています。

外国人研究者招へい事業などにより、諸外国の優秀な研究者を招へいし、日本の研究者との共同研究を行う機会を支援することで、外国人研究者とのネットワークの構築、日本の研究環境の国際化を進めており、世界94か国・地域から3,040人の研究者を招へいしています。

研究者受入

**3,040人**

国際共同研究

**11,991件**

先述のような学術国際交流事業のほか科学研究費助成事業などにより、世界152か国・地域との間で11,991件の国際共同研究を支援しています。

※ いずれの数値もコロナ禍前の令和元（2019）年度実績

海外研究連絡センター等設置年

1965

ナイロビ

1984

カイロ

1989

バンコク

1990

ワシントン

1991

ボン

1994

ロンドン

2001

ストックホルム  
ストラスブール

2003

サンフランシスコ

2007

北京

2015

サンパウロ  
アドバイザー

# 04

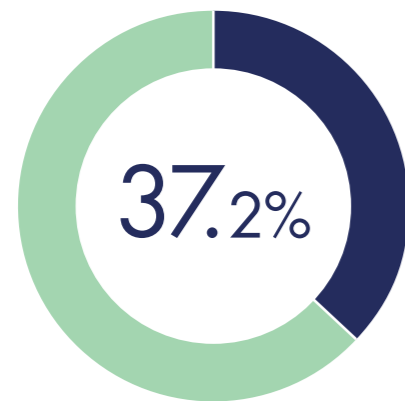
## 大学の教育研究機能を強化し、日本の研究力を底上げ

### 大学等の 研究力強化 を支援

JSPSでは科学研究費助成事業などの研究者「個人」に対する支援に加えて、大学等の「機関」に対する支援にも携わっています。その中でも優れた研究成果を創出し続けているのが、平成19(2007)年度から文部科学省が開始した世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)。世界中から優れた研究者が集まる国際的な研究拠点の形成を目指して、JSPSが審査業務や進捗管理等を担っています。

新たに令和4(2022)年度からは、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、研究活動の国際展開や社会実装を加速等することにより、研究力強化を図る環境整備を支援する事業も開始しました(地域中核・特色ある研究大学強化促進事業)。JSPSは文部科学省と共に、日本全体の研究力の発展をけん引する研究大学群の形成を推進していきます。

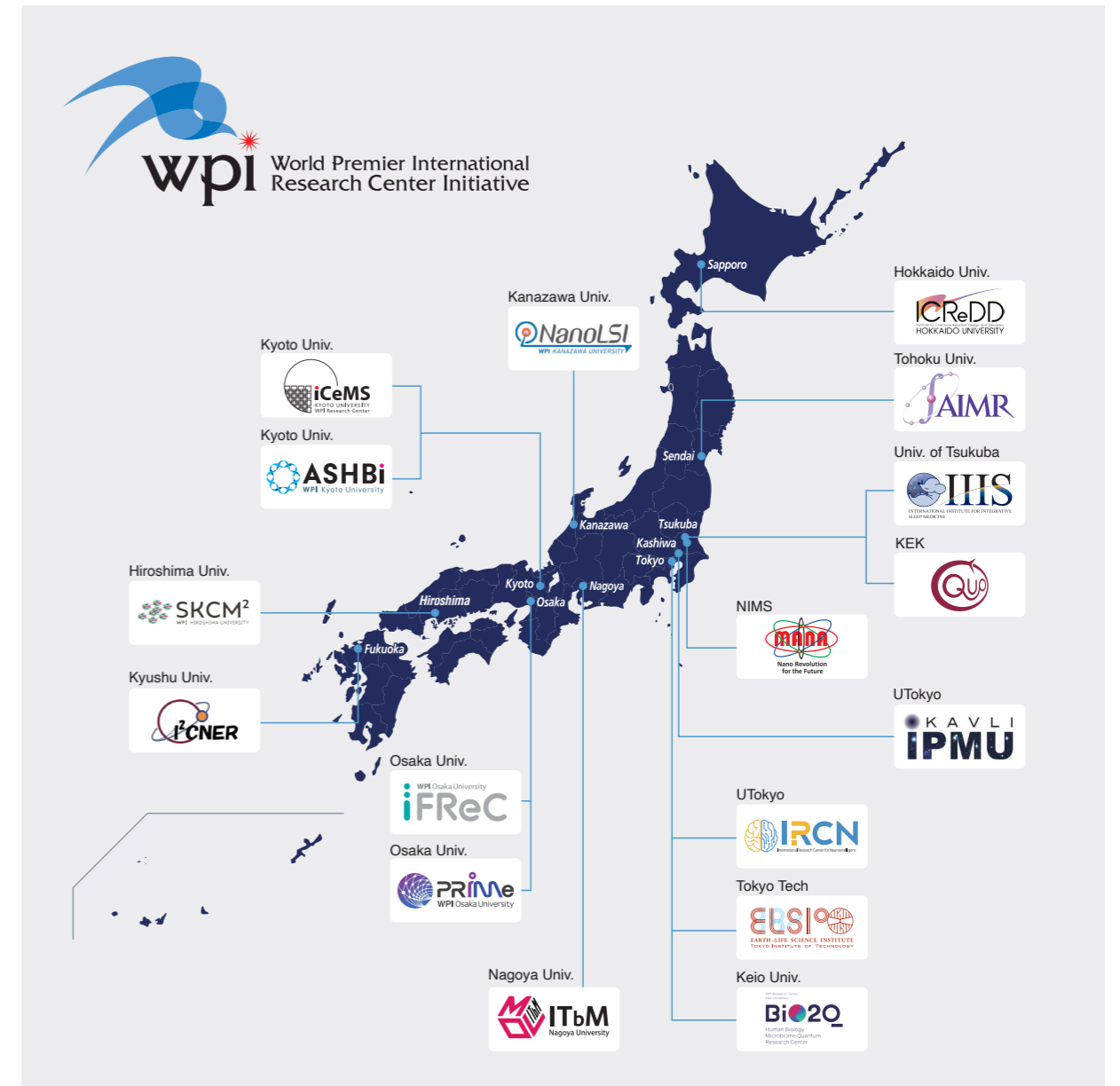
また、大学においては、研究と教育は表裏一体。研究者たちの幅広い知的創造活動と、そこから生み出される最先端の研究成果、それらを次世代を担う学生に教授していくことも、学術振興のために必要なことです。文部科学省の様々な大学教育改革プログラムの審査・評価等についても、そのような観点からJSPSが担っています。



#### WPI 拠点における外国人研究者の割合

WPI拠点における外国人研究者の割合は37.2%(令和元(2019)年度時点)。日本の大学・研究機関の平均は6%であることから、WPI拠点がいかに国際的な研究環境になっているかがわかります。

### 世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)



WPIの事業開始以降、令和4(2022)年度までに採択されたのは17拠点。高度に国際化された研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る「目に見える研究拠点」の充実・強化を目指しています。

WPIに採択された  
**17**  
研究拠点



# 05 学術の発展と「知」の創造を支える 国内外の優れた研究者を顕彰

## 日本学術振興会賞

創造性に富み、優れた研究能力を有する若手研究者を顕彰します。

JSPSでは研究者養成の一環として、平成16(2004)年度から「日本学術振興会賞」を創設し、毎年25名程度に授賞しています。

平成24(2012)年にノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥博士も、平成18(2006)年度の日本学術振興会賞受賞者です。

将来、世界を舞台に活躍が期待される優秀な若手研究者を見だし、早い段階から顕彰することで、その研究意欲を高め、日本の学術研究の水準が世界トップレベルに発展していくことを期待しています。

## 日本学術振興会 育志賞

日本の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を対象に、毎年16名程度に授賞しています。

上皇陛下の天皇御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、上皇陛下から御下賜金を賜り、平成22(2010)年度に創設されました。

## 国際生物学賞

生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ、世界の学術の進歩に大きな貢献をした研究者を対象に、毎年1名に授賞しています。

昭和天皇の御在位60年と長年にわたる生物学の御研究を記念するとともに、本賞の発展に寄与されている上皇陛下の長年にわたる魚類分類学(ハゼ類)の御研究を併せて記念し、生物学の奨励を図るため、昭和60(1985)年度に創設されました。

各賞の授賞式及び懇談会の様子



# 06 第一線の研究者によるシンクタンクで、 学術研究の最新動向を事業運営に反映

## 学術システム研究センター

JSPS事業における公正で透明性の高い審査・評価システム。その結果を常に検証し、事業への提案・助言を行っている組織が学術システム研究センターです。

大学等に籍を置く第一線の研究者が、非常勤のセンター研究員として活躍しています。科学研究費助成事業や特別研究員事業等において、審査委員候補者案の作成や審査会への出席、審査の実施状況の分析・検証などを行っています（審査・採択そのものには関わりません）。

研究者コミュニティとJSPSの橋渡し役として、最新の学術研究の動向を踏まえつつ、現場の声も反映しながら、事業の改善や充実につなげています。

学術システム研究センターの創設は平成15（2003）年7月。国の総合科学技術会議（当時）の提言等を踏まえ、JSPSが実施する競争的研究費事業において、厳正で透明性の高い評価システムを確立するため、研究経歴のある者が一貫して責任を持ち得る実施体制を整備することが目的でした。

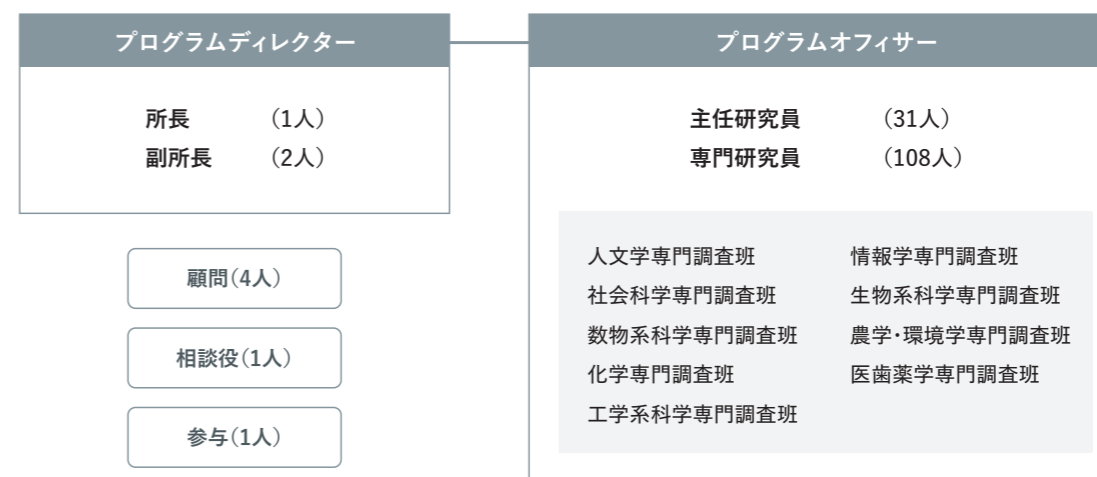
それから20年。本センターの役割や重要性は研究者コミュニティの中でも広く理解されています。

これからもピアレビューによる審査・評価体制の根幹を支えるセンターとして、学術研究のさらなる発展と研究者支援のために活動していきます。

139人の  
研究員

学術システム研究センターには、競争的研究費制度の運用を統括するプログラムディレクターとして所長、副所長、プログラムオフィサーとして139人の主任研究員及び専門研究員が配置されています。研究員は、原則として人文学、社会科学から自然科学までの全分野をカバーする9つの専門調査班のいずれかに所属し、各事業の審査・評価に関する実務を担っています。

### 学術システム研究センターの組織図

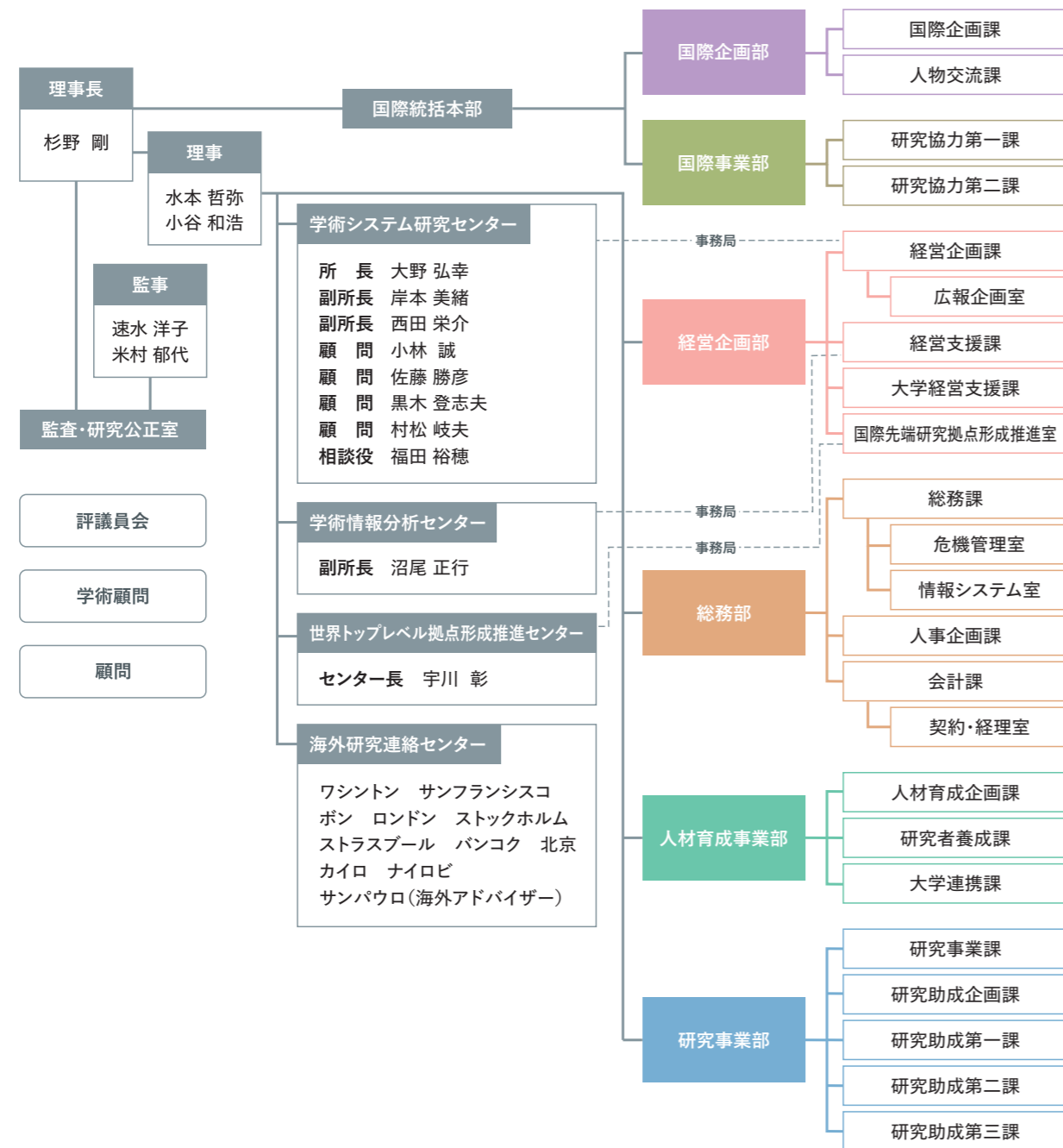


JSPS事業においては、各研究分野に精通し、十分な評価能力を有する審査委員によって、質の高い優れた研究課題、学術研究の将来を担う優れた若手研究者が選定されています。センター研究員は、各事業において公正で幅広い視点から審査が行えるよう、約14.8万人の研究者が登録されている審査委員候補者データベースから、多様性にも配慮しながら、毎年、約1.1万人の審査委員候補者の選考を行っています。

約14.8万人の  
審査委員候補者  
から選考



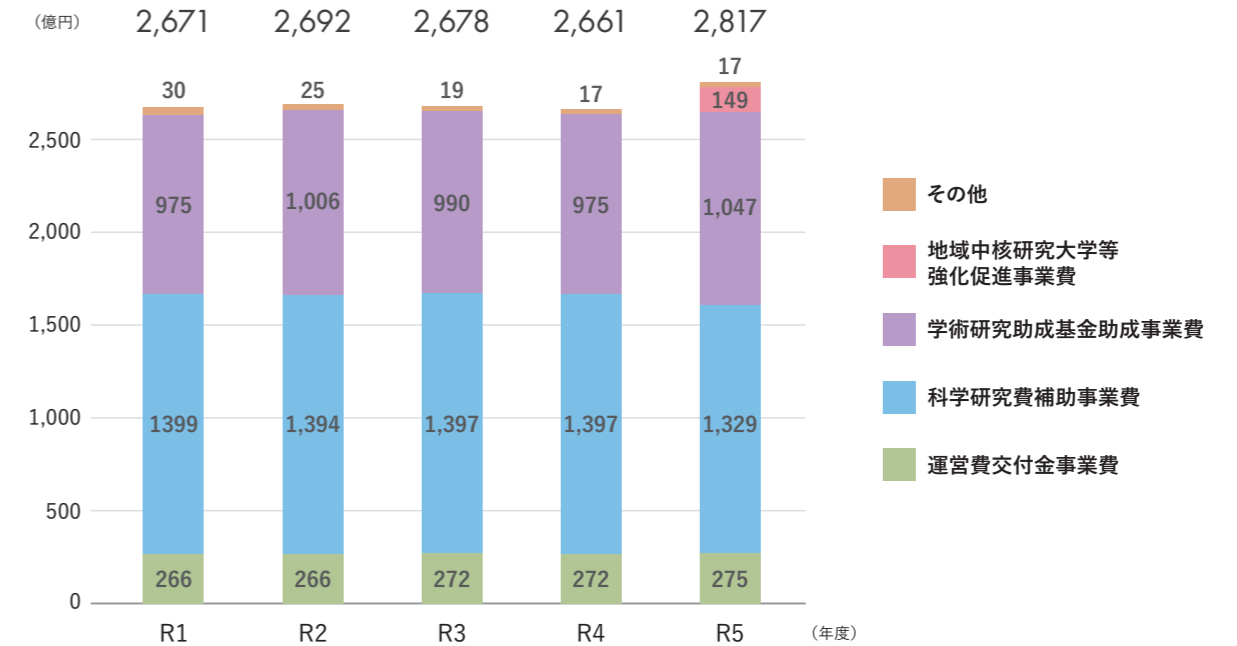
組織図 (令和5(2023)年9月現在)



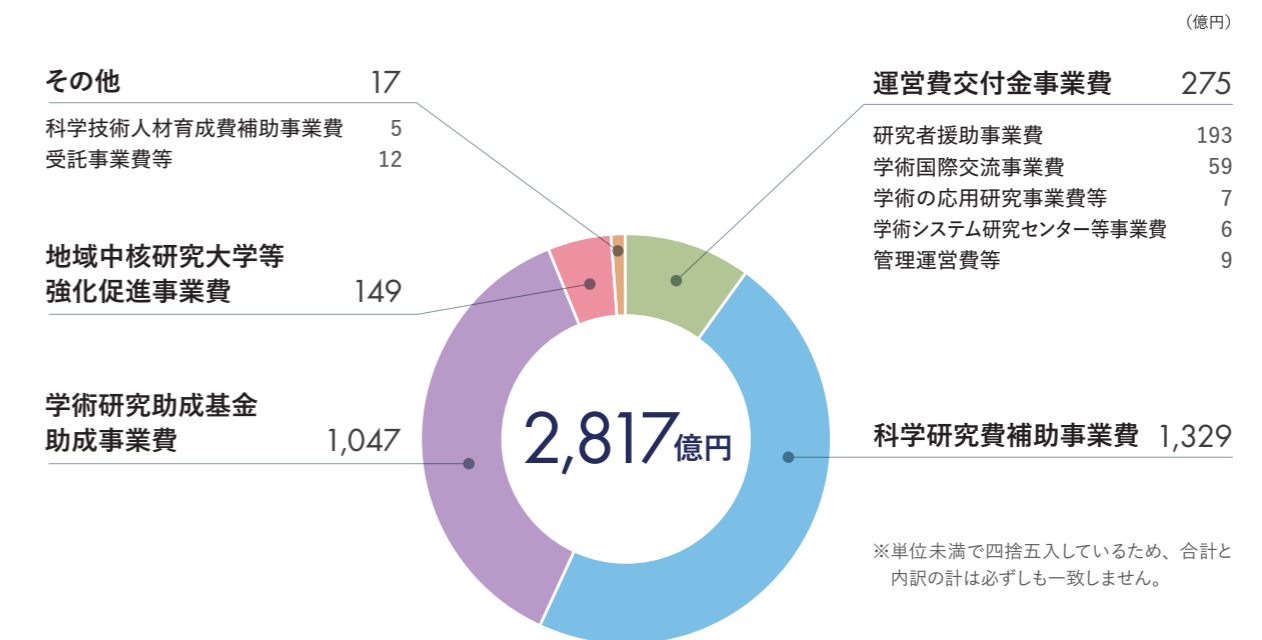
役員数数の推移 (各年度4月1日現在)

年度	R1	R2	R3	R4	R5
役員	5	5	5	5	5
常勤職員	175	161	167	170	177

主な事業別予算額の推移









































令和5(2023)年度事業別予算額



JSPSでは特別の援助を必要とするもの等については、皆様からの寄付金による「学術振興特別基金」をもって事業を実施しています。寄付に関するお問い合わせは、総務部総務課 (TEL 03-3263-1722) までご連絡ください。

# 事業一覧

	事業名	支援(実施)期間	支給経費額/費目
研究助成事業	科学研究費助成事業 	1~7年間 (研究種目による)	研究種目による
	課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 (学術知共創プログラム) 	6年間	1研究テーマ当たり 1500万円程度/年度
	人文学・社会科学データインフラストラクチャー 強化事業 	最長5年間	1拠点当たり 2000万円程度/年度
人材育成事業	特別研究員 	2~5年間 (資格による)	研究奨励金20万~44万6000円/月 研究費 450万円以下 ※応募区分や研究期間によって異なる 特別研究員-CPD採用者は上記に加え、渡航費(往復航空券)
	海外特別研究員 	2年間	往復航空賃、滞在費・研究活動費(約450万~750万円/年) 海外特別研究員-RRA採用者は上記に加え、 帯同する子にかかる往復航空賃、子供手当 (帯同する子1人につき滞在費・研究活動費の10%相当)
	若手研究者海外挑戦プログラム 	3か月~1年間	往復航空賃、 滞在費(100万~140万円)、 研究活動費
	卓越研究員事業 	最長5年間	【A】①研究費:年間600万円上限/人(2年間) (人文・社会科学系は年間400万円を上限) ②研究環境整備費: 年間200万~400万円上限/人(5年間) 【B】産学連携活動費: 年間最大1000万円上限/人(最長5年間) ※企業は【A】または【B】を選択
学術国際交流事業	二国間交流事業(共同研究・セミナー) 	共同研究:1~3年間 セミナー:1週間以内 (相手国、対応機関による)	共同研究:1課題当たり100万~250万円以内/年度 セミナー:1課題当たり120万~250万円以内 (相手国、対応機関による)
	二国間交流事業 派遣(特定国派遣研究者) 	3か月~2年間 (派遣国、対応機関による)	往復航空賃、滞在費等 (派遣国、対応機関による)
	日独共同大学院プログラム 	最長5年間	1プロジェクト当たり 1500万円以内/年度
	国際共同研究事業 	最長3年間または5年間 (プログラムによる)	1課題当たり1000万円以内/年度 (プログラムによる)
	研究拠点形成事業 A. 先端拠点形成型  B. アジア・アフリカ学術基盤形成型 	A. 最長5年間 B. 最長3年間	A. 1課題当たり1800万円以内/年度 B. 1課題当たり800万円以内/年度
	日中韓フォーサイト事業 	5年間	1課題当たり 5000万円以内/5年間
	外国人特別研究員 A. サマー・プログラム  B. 欧米短期 C. 一般	A. 夏季2か月間 B. 1か月以上12か月以内 C. 12か月以上24か月以内	渡航費(往復航空券)、滞在費等 (詳細は、種別によって異なる)
	外国人招へい研究者 D. 長期  E. 短期	D. 2か月以上10か月以内 E. 14日以上60日以内	渡航費(往復航空券)、滞在費等 (詳細は、種別によって異なる)
	論文博士号取得希望者に対する支援事業 	最長3年間	旅費、物品費、謝金、その他
	外国人研究者再招へい事業 (BRIDGE Fellowship Program) 	14日以上30日以内	往復航空賃、滞在費、 調査研究費等

	事業名	支援(実施)期間	支給経費額/費目
学術国際交流事業	HOPEミーティング~ノーベル賞受賞者との5日間~ 	5日間程度	国内交通費、滞在費、 その他参加費等
	先端科学 (Frontiers of Science: FoS) シンポジウム事業 	4日間	往復航空賃、外国・国内交通費、 滞在費
	ノーベル・プライズ・ダイアログ 	1日間	参加費無料
	リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業 	1週間程度	往復航空賃、外国・国内交通費、 会議参加費(滞在費を含む)
大学の教育研究機能の向上	世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) 	原則10年間	1拠点当たり7億円以内/年度* ※平成24(2012)~令和4(2022)年度採択拠点
	地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 	5年間	1件当たり最大55億円程度
	卓越大学院プログラム 	7年間	【平成30(2018)年度採択】1件当たり約1.3億円/年度 【令和元(2019)年度採択】1件当たり約1.4億円/年度 【令和2(2020)年度採択】1件当たり約1.6億円/年度
	デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業 ~Xプログラム~ 	最長6年間	1件当たり約7000万円以内(初年度・年間)
	人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業 	最長6年間	1件当たり4000万円以内(初年度・年間)
	知識集約型社会を支える人材育成事業 	【メニューI、II】 最長5年間 【メニューIII】 最長4年間	【メニューI】1件当たり3078万円以内/年度 【メニューII】1件当たり2200万円以内/年度 【メニューIII】1件当たり2935万円以内/年度
	地域活性化人材育成事業 ~SPARC~ 	【タイプ①】 最長6年間 【タイプ②】 最長6年間	【タイプ①】1件当たり2億円以内/初年度 【タイプ②】1件当たり1億円以内/初年度
	成長分野における即戦力人材輩出に向けた リカレント教育推進事業 	交付内定後~翌年3月末	【メニューA】1件当たり約2666万円以内 【メニューB】1件当たり約1336万円以内 【メニューC】1件当たり約2688万円以内 【メニューD】1件当たり約2976万円以内
	大学の世界展開力強化事業 	最長5年間	【タイプA】1件当たり3400万円以内/初年度 【タイプB】1件当たり1億4200万円以内/初年度
	スーパーグローバル大学創成支援事業 	最長10年間	1件当たり 最大2億~5億円以内/年度
社会との連携の推進	ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI 	交付内定日~ 翌年3月末の期間内	1プログラム当たり50万円以内
	サイエンス・ダイアログ ~科学で世界とつながれ~ 	随時	教材費、国内交通費等
	学術の社会的連携・協力の推進事業 (産学協力事業) 	5年間	会議・研究会等の開催に必要な各種経費
研究公正推進事業 			
学術システム研究センター 			
学術情報分析センター 			



ウェブサイト

<https://www.jsps.go.jp>



JSPS公式 X(Twitter) (@jsps\_sns)

X(Twitter)でリアルタイムに情報をお知らせ



メールマガジン(JSPS Monthly)

公募やイベント等のお知らせを月に1回配信



JSPS-Net  
(研究者/研究支援者専用SNS)



世界各地で活躍する  
研究者や研究支援に携わる方々の  
ネットワーキングを支援するSNS



JSPS公式YouTubeチャンネル

イベントの様子や事業の紹介動画等を配信



- ・東京メトロ有楽町線 丸の内線四ツ谷駅 2番出口より ..... 徒歩6分
- ・JR四ツ谷駅(総武線、中央線)丸の内線四ツ谷駅より..... 徒歩8分
- ・東京メトロ丸の内線、南北線)丸の内線四ツ谷駅 1番出口より ..... 徒歩10分

〒102-0083

東京都千代田区丸の内 5-3-1 丸の内ビジネスセンター

03-3263-1722 (代表電話：総務部総務課)

独立行政法人日本学術振興会概要 2023年 - 2024年

編集・刊行：経営企画部経営企画課広報企画室 発行：2023年9月